

インタビューの全文はこちらからご覧いただけます



# 東京大学基金だより

東京大学では、研究・教育活動をはじめ、奨学金支給やキャンパス整備に、卒業生をはじめとした多くの方々からのご寄付が活用されています。皆さんの充実した学生生活を応援する先輩卒業生から、メッセージをいただきました。

二〇二四年四月号



## 林 まりか さん

東京大学工学部機械情報工学科、情報理工学系研究科知能機械情報工学科(情報システム工学研究室)を経て、学際情報学府博士課程を修了。2011年に株式会社キビテクを設立、代表取締役CEOに就任。

## 自分の想いを 気づかせてくれる寄付

### 「オタク集団」と挑んだロボコン。 RoboTech活動危機で奔走

生まれは、富山県の下新川郡朝日町です。大学進学を考え始めた頃、もう少し頑張れば東京大学に行けるかとも思い、受験勉強に励み、一浪を経て何とか一に合格することができました。大学では、ロボット工学を専攻していくことになるのですが、「ロボコン」(ロボットコンテストの略で、ロボットをチームもしくは個人で製作して、その性能を競う大会)に挑戦したことが大きかったと思



当時のロボコンの様子

ます。まず2年次の全学ゼミの授業で、おもちゃのブロックと、それを動かすプログラミングツールを使って、簡単なロボットをつくったんですね。これが想像以上に面白く、

楽しかったんです。そして、学内に「RoboTech(ロボテック)」というロボコンサークルがあることを知り、3年次から入部しました。

私は会計系でしたが、本当にいろんなことをやりました。入部した時の部室は、当時の工学部2号館の中庭にある物置小屋。ここで「みんなでロボットつくっています」というオタクの集まりです(笑)。でも、工学部2号館の建て替え工事が始まって、その小屋が取り壊されてしまい。新たな活動拠点を設けるために、工学部の施設管理の方や工事現場監督の方などに暗中模索ながらご相談し、応援してくださる先生や同期に助けていただき、工学部に対して、活動の意義を説明する書類などを出しました。



RoboTechの仲間たちと後輩のロボコン世界大会を見に訪れた時

**安田講堂**  
安田財閥の創始者安田善次郎氏のご寄付により1925年に完成。

**中央食堂**  
東大創設140周年記念(2018年)事業の一環で、卒業生・一般の方々のご寄付を活用して、リニューアル事業を完了。  
2024.03.25

**山上会館**  
東大創設140周年記念(2018年)事業の一環で、卒業生を中心としたご寄付を活用して、リニューアル事業を完了。

**総合図書館**  
1923年の関東大震災で壊滅的被害を受け、米国のジョン・ロックフェラーJr.氏のご寄付により1928年に再建。

**小柴ホール**  
小柴昌俊特別栄誉教授がノーベル賞の賞金の一部をご寄付いただき建設。

**ハチ公と上野英三郎博士像**  
卒業生・一般の方々からのご寄付によって建立。

**弥生講堂・一条ホール**  
農学部設立125周年記念事業の一環として、株式会社一条工務店様のご寄付により建設。

**福武ホール**  
福武總一郎氏(ベネッセコーポレーション代表取締役会長)のご寄付により、2008年に建設。

**伊藤国際学術研究センター**  
伊藤雅俊氏(株式会社セブン&アイホールディングス名誉会長) 伸子氏(同夫人)によるご寄付にて建設。

**経済学研究科学術交流棟・小島ホール**  
小島鏡次郎氏(小島グループ代表)からのご寄付に基づき2009年に建設。

**第一グラウンド**  
陸上部OBOGを中心としたご寄付により改修。

**21 Komaba Center for Educational Excellence (21 KOMCEE)**  
森稔氏(森ビル株式会社代表取締役会長)を筆頭としたご寄付により建設。

**パイプオルガン(900番教室)**  
1977年に、森泰吉郎氏(森ビル株式会社初代社長)によるご寄贈。

**第二グラウンド**  
ホッケー部OBOGを中心としたご寄付により改修。

**正門**  
卒業生を中心としたご寄付により修繕。  
2024年3月現在

**寄付で建設された  
主な建物**

# ロボットを通じ 社会に意義のあることを

学最終的には農学部棟との隙間にできた小さなプレハブ小屋を正式に使わせてもらえることになりました。ここが今でもRoboTechの活動拠点(ものづくり実験工房)となっています。

あとは、卒業生からの寄付募集を発案してスタートしました。OB・OGの方々の連絡先を辿って調べ、実際に会いに行く、メールでお願いします。「一口5000円から、お願いします!」と。そんな裏方業務を率先してやりながらも、しっかりロボコンに出場して、ベスト8に入ることができました。

## 「人とは違うことがしたかった」 「ロボット博士」がベンチャー社長に

学部生の頃、知能ロボットを専門とされていた佐藤知正先生(現東大名誉教授)のゼミに所属していました。佐藤先生から言われた2つのお話が心に残っています。一つは、「研究者は、公的なお金もいただきながら、自分の好奇心に従って、ある意味、「遊」ばせていただく仕事だ」というお話。

もちろん、無責任に遊ぶのではなく、社会からの期待を背負って、責任を持って、人類の好奇心を代表して活動する素晴らしい仕事だと得心しました。もう一つは、「研究の世界には、公募やそれ以外にも予算がつく仕組みがある。その機会を逃さないために、研究ビジョンをしっかりと持ちつつ、常に実現までの

予算計画を考えておくこと」。

今、経営者となって仕事をするうえでも、大切な教えだったと感謝しています。大学院に進んだのは、まだまだロボットの研究を続けたいと考えていたのと、親も「進学していいよ」と言ってくれたからです。そもそも私は、何か人と違ったことがしたかった

ので、「ロボット博士って、十分に変わっているよね」と(笑)。もともとアカデミックの道に進むとは決めていなくて、でもヒューマンインターフェース研究に関わる仕事をしたいなど、三菱電機への就職を決めました。



大学院時、外装の柔らかさが人間の印象に与える影響や、外装のセンサ触覚がロボットの機能面へ与える影響を調べる実験の目的で作ったロボット

入社後は、土日などプライベートの時間を使って、自由な研究や工作をしようと考えていました。当時、結婚をきっかけに引っ越したのが、居住用ではなく工場用の物件で(笑)。お風呂はないけど、ここなら工作機械とか実験器具を置いても大丈夫だし、音を出しても平気だという理由で契約しました。そこで



就職後住んでいた工場用物件

仲間たちと電子工作をやっているうちに、電磁波を使ったセンシング技術が面白いと思うようになって。「IPA未踏ソフトウェア創造事業\*」に仲間と共同で応募し、2010年度の未踏事業に採択されたのです。大学や会社から提示された研究に縛られることなく、自分たちでつくりたいものをつくる自宅ガレージでの活動が、私にとってはとても面白く、刺激的でした。この仲間たちと一緒にものづくりを続けていきたいという思いと、社会的活動にも取り組みたいという志がどんどんふくらんでいきました。

その直感を大切に、三菱電機を退職し、2011年に株式会社キビテクを起業しました。私がCEO(最高経営責任者)、CTO(最高技術責任者)は東大の先輩です。

※経済産業省が主導している画期的な個人を支援するソフトウェア開発支援・人材発掘プロジェクト

## 自分の価値観を 外側から形成してくれる寄付

現在、キビテクでは、ロボット用の遠隔制御システムとオペレーションセンター機能を複合させた「HATS」というサービスを提供しています。ロボットで遠隔就労できるようにして、世界の雇用機会を均等化することを目指しています。このサービスは、出産を機にスタートしました。

それまでは、社会に関わるといことは考えていなくて、自分とか自分の周りがやりたいことをやる、生きのびていかなければいけないと考えてやっていただけなんです。そういう考え方でいると、稼げれ

ばいいよとかお金が得られればいいよとなりがちなんですけど。社会に対して意義のあることを、お金じゃなくてどういうビジョンを掲げて、途中どういう結果になったとしてもやってよかったなと思えるというところに判断基準が変わっていったんですよね。寄付の話でいうと、出産するまでは、寄付ってどこにしようかっていうのが決められなくて、すごく「気持ち悪い」存在だったんですよね。自分の中で、何を大切にするのか、それとも大切にしないのかという方向性がなかったです。

私にとって寄付とは、外側から私に対して「あなたはこういうものを大切にしているんですよ」ともう一度認識させてもらえるものだと感じています。寄付って、いろんなプログラムや物事に対するものがあると思うんですけど、どれかを選んでいかなきゃいけない。どこに寄付しようかと考えていく過程の中で、自分の中でこれを大切にしようというものを考えるものだと思うんです。



キビテクでのRoboTechの学生との交流会の様子

私は東大基金を通じてRoboTechに寄付をしていますが、年に1回現役の学生から連絡が来ると、日常を過ごしていると忘れてしまいがちな「ロボットを通じて社会に意義のあることをしたい」という自分の想いに気付かせてもらっています。

RoboTech支援基金の  
詳細はこちらの  
Webページから



# 寄付の活用事例

東京大学の教育・研究支援や課外活動などは、卒業生をはじめ、法人や一般の方々のご寄付によって支えられています。



スチューデントサポーターズクラブ奨学金、さつき会奨学基金、就学支援事業基金、Go Global奨学基金など



部活動の設備・備品の購入、施設修繕、大会参加費、式典開催費など